



波 濤

第 3 1 号

学 会 会 成 日
会 員 数 8 6 5 名 (平 成 1 8 年 4 月 1 日 現 在)
大 窓 同 窓 會 員 一
送 川 務 委 員 一
放 神 奈 川 同 窓 會
行 放 送 同 窓 會
編 集 總 務 委 員 一
責 任 者 五 十 嵐
發 行 日 平 成 1 8 年 4 月 1 日

第十七回通常総会及び 講演会開催のお知らせ

神奈川同窓会第十七回通常総会及び講演会を開催致しますので、お知らせ致します。

【総会】

日 時 平成十八年五月十四日(日)
午後一時～
場 所 神奈川学習センター講義室

《議案》

- 一、平成十七年度活動報告
- 二、平成十七年度収支・決算報告
- 三、平成十七年度フオスター・プラン活動報告
- 四、平成十七年度フオスター・プラン収支・決算報告
- 五、平成十八年度活動計画
- 六、平成十八年度収支・予算
- 七、平成十八年度フオスター・プラン活動計画
- 八、平成十八年度フオスター・プラン収支・予算
- 九、平成十八年度役員選任



講演会

日 時 総会終了後 二時三〇分～四時
講 師 放送大学助教授

坂井 素思 先生

専攻分野 経済学、社会経済学

演 題 なぜ日本人は珈琲を
好きになったのか？

概要

日本人のコーヒー消費をめぐって、第二次世界大戦以前の日本人の珈琲趣味、珈琲の大衆化、覚醒文化としての珈琲などについて、皆さんと一緒に考えたいと思います。内容は以下のとおりです。

- 一、日本人と珈琲との出会い
- 二、戦前における珈琲ブームはなぜ起きたのか？
- 三、珈琲消費と喫茶店発展との関係

【懇親会】

講演会終了後懇親会を行います。皆様の参加をお待ちしています。

場 所 弘明寺 玄や(予定)
参加費 三〇〇〇円程度

企画 便り

健康ウォーキングと

江ノ電・鎌倉の旅

今回は、健康ウォーキングと湘南の海辺を走る江ノ電そして鎌倉の一部を楽しみます。境川に沿う「境川自転車歩行者道路」を湘南台から藤沢までゆつたりと歩きます。藤沢から江ノ電に乗って車窓まじかの湘南の海を愛でつつ、鎌倉へ。左記の通り企画致しますので皆様のご参加をお待ち申し上げます。

(幹事：企画担当 木村勝紀・芝崎芳和)

- 一、開催日程 平成一八年六月四日(日) 雨天決行
- 二、集合場所 横浜市営地下鉄「湘南台駅」改札出口付近
- 三、集合時間 午前九時三〇分(時間厳守)
- 四、コース 概略
市営地下鉄湘南台駅↓(徒歩一五分)
↓境川自転車歩行者道路↓ウォーキング(二時間・途中弁当昼食)↓ウォーキング(四〇分)↓藤沢着↓江ノ電藤沢駅発
↓長谷駅着↓長谷寺拝観↓高徳院拝観
↓鎌倉文学館拝観↓JR鎌倉駅駅付近で懇親会↓現地解散

五、携帯品 お弁当、飲料

六、申込締切

平成一八年五月三十一日(水)

七、申込先 企画担当 木村勝紀

〒二四五―〇〇〇六

横浜市泉区西が岡一―一九―二三

電話 〇四五(八―四―二九〇一)

E-mail

kinukatu@ee.caty-yokohma.ne.jp

八、緊急連絡 当日の緊急連絡先

〇八〇―六五二―三七六九

(木村の携帯電話)

九、訪問先解説

◇境川自転車歩行者道路 城山湖畔近を源流とし町田市と相模原市との境、大和市と横浜市との境、最後には藤沢市と横浜市との境を流れる境川。その境川の土手に沿った自転車と歩行者専用の舗装道路です。歩行者に安全な道は、ゆったりとした気分で歩くことができます。

◇江ノ電 わずか十kmの短い沿線は、民家の軒をかすめたり湘南海岸すれすれに走ったり、移り行く車窓を眺めるだけでも楽しめます。

◇長谷寺 奈良の長谷寺とともに長谷観音で有名。長谷駅から五分。

◇高德院 ご存知の鎌倉大仏で正確には阿弥陀如来坐像。鎌倉唯一の国宝仏。

◇鎌倉文学館 旧前田侯爵鎌倉別邸を改築したもの。

江戸の名残り・谷中寺巡り

「谷中の由緒」

木村 勝紀

「江戸の名残り・谷中寺巡り」。この行事のレポートは、参加メンバーの尾崎優子さんから別途ご披露されると思いますので、それに譲るとして幹事の私からはこの機会に「谷中の由緒」について少しばかり紹介したいと思えます。訪問先に谷中を選んだ理由にも触れたいと思います。

谷中は上野台と本郷台の間、不忍池につづく低湿地のためこの名を生んだといわれます。天正一八年(一五九〇年)家康が入国したころ、雑草と樹林におおわれた寒村で、寺は1寺があるにすぎなかったといえます。その後慶長年間(一五九六年〜一六四四年)、寛永年間(一六四四年〜一七〇三年)、続いて明暦年間(一六五五年〜一七〇三年)、万治年間(一六五八年〜一七〇三年)、さらに寛文年間(一六六一年〜一七二〇年)、延宝年間(一七三三年〜一七八三年)、天和年間(一七八一年〜一八三三年)、貞享年間(一六八四年〜一七三七年)へと追々寺院が建立され、慶安以来三十年ほどの間にすっかり堂塔・伽藍で埋まったそうです。

しかし、元禄十六年(一七〇三年)、享保六年(一七二一年)、同十年(一七三一年)、明和九年(一七七二年)の度重なる大火に谷中は焼け、その都度寺院は被害を受けたそうです。幕府は大火のある毎に、都市計画によって寺を移転させました。江戸「べ」の要地にあったもので、この谷中へ移された寺は多いといわれます。

一体この地になぜ寺院が集中したのでしようか?上野台は江戸城の鬼門にあたります。上野東照宮も寛永寺もその鎮護のためですが、谷中の諸寺にも同じ意味があるのかも知れません。また寺社のあるところ必ず人が集まり、人の集まるところ必ず門前町が栄えます。江戸は開闢以来急速にふくらみ、どんどん郊外を開発せねば間に合わなかったといわれます。うつつたる谷中の樹林を開き、そこに人家を建てました。自然に街が出来、名所が出来、門前町として栄えました。天王寺は富籤で賑わい、笠森稲荷はお仙の茶屋で繁盛し、朝夕勤行の音を聞きながら谷中は変貌していききました。また、鶯と蛩など谷中は追々、詩とロマンに満ちた名所ともなりました。慶応4年(一八六八年)五月十五日、江戸の谷中は幕府軍の彰義隊と官軍との間の上野戦争で幕を閉じ、そのしつとりした独特の情緒を失いました。官軍の容赦のない砲撃で、多くの寺と町家は焼き払われたのです。

しかし、その後も尚七十七ヶ所ともいわれる寺が存在し、関東大震災や戦災による被害も少なく、今でも昔ながらの風情が多く残っています。寺院が並ぶ景観は江戸末期のものとはほぼ等しく、江戸城下町の成熟過程を読み取れるともいえます。また、寺院以外にも江戸時代からの木造技術により、明治・大正の庶民的な木造建築や江戸以来の道筋、町割りが残っています。今回の行事は寺巡りがテーマでしたが、こうした江戸の名残りを残す町割り、道筋をたどるのもまた一興ではないかと思えます。紙面も限られますので、この辺でおしまいに致します。東京神田で生まれて谷中の隣町、日暮里で生活した経験から私にとって東京下町は故郷なのでした。

「谷中のお寺は花より団子」

尾崎 優子

幼い頃、上野動物園の向こう側はジャングルだと思っていた私は、かねてより「谷中」を訪ねてみたいと思っていた。またとないチャンスだったので、秋晴れの一日、谷中散策に参加させていただきました。市販のガイドブックより親切に作られた芝崎芳和さんお手製の小冊子を手に寺巡りは始まりました。三歩あるけばお寺に当たるといってお寺だらけで記憶はごちゃ混ぜ、印象深いベスト3はお寺を除いた以下でした。

その壺、何と言っても「羽二重団子」。日暮里駅のすぐ近くに本店があり文政二年から続く老舗だそうです。著名な文学作品にも多々登場する名物のお団子は、おみやげよりは是非とも現地でご賞味ください。さっぱりとした江戸の味がいたします。



〈朝倉彫塑館にて〉

その式、日曜日だというのに谷中霊園内、徳川家の霊廟前で観光案内を丁寧になさっておられた「ボランティアの紳士」。地道な活動に頭が下がりました。十五代将軍徳川慶喜の墓標は外から見られないようになっていますが、ガイドがあつたお陰でよく解りました。

その参、「朝倉彫塑館」。彫塑家、朝倉文夫氏のアトリエと住居が美術館となつて公開されています。和洋折衷を織り交ぜた巧みな建築に、設計者である朝倉氏の異文化吸収の柔軟さと、明治人の日本人たる心意気を感じました。3階の和室には直径が一問半もありそうな円卓が据えられ、西洋美術を学びながらも日本文化を生かした朝倉氏を囲んで、芸術論が聞こえて来そうな雰囲気伝わりました。東京の下町を一望できる屋上へもぜひ上がつていただくことをお勧めします。

そして、おまけに記しておきたいのが「築地塀(つじじい)」。震災にも強い江戸時代からの工法だそうで、大変おもむきがあり自宅の塀にしたいくらいです。何しろみなさん、クイズ番組に出場すれば優勝しそうな方々揃いで、あれこれうちくちくち耳を傾けながらそぞろ歩けば、ちよど頃合いに♪ギンギンぎらぎら夕日が沈む…が生まれた「あかし坂」にさしかかり、根津神社を参拝し、楽しい一日はアツという間に過ぎ行きました。

肝心の「谷中の寺」のお話しは、木村勝紀さんをお願いいたします。皆様にはお世話になり、ありがとうございました。

映画鑑賞会&お話し

「映画鑑賞会に参加して」

田澤 誠一

二月十九日の一時より神奈川学習センターで映画鑑賞会とお話がありました。お話しは「日本映画の魅力」というもので日本映画は、映画の発祥に近いぐらい古いことがわかりました。今回で五回目ということでしたが、私が参加したのは初めてです。鑑賞映画は、黒澤明監督の「天国と地獄」でした。この映画は西浦氏の説明のおり、黒澤映画には独特のテンポがあると言つたとおり、そのテンポに引き込まれるものでした。内容は、個人で楽しむものより鑑賞会で見るといったもののようで、誘拐事件の主人公と犯人のやり取りそして最後のどんでん返し、映画ならではの展開でした。白黒映画なのに一画面だけカラーになり、そこから展開が変わり解決に向かう。何かを考えさせるものではなく、映画に引き込まれその状況を楽しませてくれるものでした。以前、スピルバーク監督が、映画とは観客を楽しませるものだと言っていました。そういう意味では、素晴らしい作品だったと思います。



《講演中の西浦 久晏 氏》

「映画鑑賞会に参加して」

志賀 健三

二月十九日(日)午後一時から神奈川学習センターでの映画鑑賞会に参加しました。

西浦氏より「日本映画の魅力」についてお話を聞いたあと「天国と地獄」(黒澤監督)を楽しみました。

西浦氏のお話は日本の代表と評価されている監督は誰か、その監督による代表作、日本映画人気ベストテンなど。いま映画作品について語るとき、外国物日本物と区別するよりはむしろ演出(監督)は誰かという時代であろうとのこと。なお黒澤映画のキーポイントは、「さむらい、ヒューマニズム、ドリーム」であるといいかにも映画が好きでたまらないといった表情で語られた。「天国と地獄」は誘拐を扱った現代刑事物。主人公の権藤(三船)は靴づくりからのたたきあげで会社経営の

一角に加わるまでになった。高台の豪邸に妻(香川)そして一人息子と暮らしている。権藤は経営方針の転換圧力に対抗し実権を握ろうと自社株の買い占めを仕掛ける。そんな状況のなか突然運転手の子供が自分の息子と間違つて誘拐され莫大な身の代金を要求されてしまう。憤怒、葛藤、身の代金受け渡しの新幹線、街の活気と喧騒、汚れた川、麻薬、捜査陣のチーム追跡など当時の風景や雰囲気を感じられる。しかもなく、刑務所での対面で幕切れとなる。犯行の動機や医者のお卵といった犯人像には違和感が感じられる。原因は作品の原作が外国ものであることも大きな要因と考えられる。重苦しい内容で緊張を強いられるが、久しぶりに黒澤映画を堪能しました。

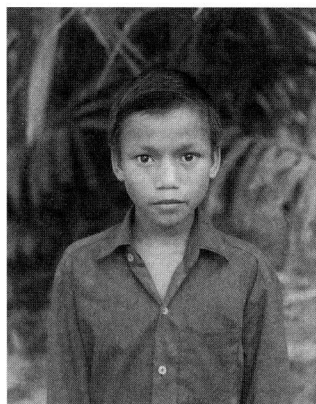
この映画が制作された一九六〇年代は東海道新幹線が開通し、東京オリンピックを契機に日本の経済は高度成長期にはいつていた。所得倍増計画をかげなりふり構わぬ急成長のかけには心配される出来事も多々あつたと思われる。いち早く取り上げた題材にはこのような時代背景も読み取れよう。



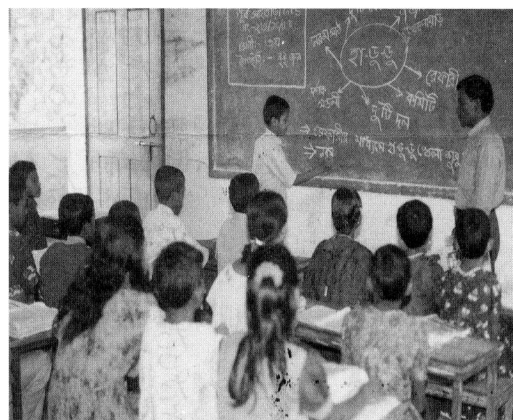
「天国と地獄」
監督 黒澤 明

同窓会では「社会への貢献の一環」として、一九九一年よりF・P活動に参加しています。皆様からの援助金は発展途上国の子供達と、彼らのコミュニケーションの生活を向上させるため様々なプロジェクトに役立てられています。私達は、現在五名のフオスター・チャイルドのフオスター・ペアレントとなり、手紙での交流もしています。

今回は、二〇〇四年七月より私達のチャイルドとなったバングラディッシュのスバシュ君を紹介しましょう。昨年の秋、F・Pの現地スタッフが父親に面接した時の報告によると、スバシュ君は三年生に進級し学校では中位の成績で好きな科目は算数、現地語、英語とのこと。水汲みの手伝いもできるようになったそうです。生活状況は、手押しポンプ付き掘り抜き井戸を利用してはいますが、適切な処理がされていないため飲水には適しません。家族は依然として空き地で用を足している環境下にありま



スバシュ君
(バングラディッシュ)



《短期学習キャンプの様々》

プロジェクトの写真は生徒達がコミュニケーションの先生によつて進められている短期学習キャンプの様々です。報告によると教室での学習状況は、教師と生徒の交流があまりないので、生徒が授業に参加し活発に意見交換する機会はないとの事。この教育環境を改善するためにF・Pは、活動地域の学校で成績不振といわれた子供達を対象に、コミュニケーションが革新的な短期学習キャンプを実施する支援を行い、これを通して質の高い教育実践を体験する機会を設けました。

フオスターファミリーから合計四五人の子供達とその他二八〇人がプロジェクトの成果を共有しました。これは、コミュニケーションに多大な成果をもたらしました。

スバシュ君との絆を通じて私達もコミュニケーション全体の活動に参加している事になります。今後とも暖かいご支援よろしくお願い致します。チャイルドへ手紙を書いたりF・P活動に興味をお持ちの方、お手伝い頂ける方を募っています。

フオスター（ラン実行委員 星）

フオスター・プラン
実行委員会の活動について

- 一、同窓会会員への募金活動
(年一回「波濤」に
振り込み用紙を同封)
学部生及び他の同窓会員からのご寄付もあります。
- 二、フオスター・チャイルド五名への
資金援助と文通などによる交流。
- 三、広報活動 参考資料のパネル展示
(チャイルドの写真、手紙、成長記録等)
会報「波濤」での活動報告
- 四、講演会、勉強会の開催
チャイルドの母国大使館や関係機関との情報交換及びチャイルド訪問の検討
- 五、実行委員会の開催

同窓会ではF・P活動にお手伝い頂けるかたも募っています。
その他、お問い合わせ等は、神奈川同窓会までお願い致します。

会計・事務局からのお願い

神奈川同窓会では、会員の皆様に、入会時に入会金5,000円、年度会費として1,000円を納入して戴いております。
「波濤」と同封の振込み用紙にて、平成18年度年会費をお振込み下さいますようお願い致します。
(過年度分、未納の方はご一緒にお振込みお願い致します。)

振込み用紙の記載について：

住所氏名を記入の際は、恐れ入りますが楷書での記入とフリガナの記載をお願い致します。

住所変更をされる方：

変更後の住所・電話番号等を振込み用紙に記入する際は、「住所変更」と朱書をお願い致します。

口座番号 00250-4-16183

〒232-0061

横浜市南区大岡2-31-1
放送大学神奈川学習センター内
神奈川同窓会事務局



同窓会からのお願い

同窓会活動に協力して下さる方を、役員一同切望しております。ご協力頂けそうな方のご推薦も、是非お願い致します。総会改選までに立候補して頂ける方、ご推薦して頂ける方、お問合せ等は、左記にご連絡お願い致します。

連絡先：090-2750-4072

五十嵐 一成

